

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人 二階堂学園

日本女子体育大学附属みどり幼稚園

1. 教育目標

- ・明るく元気な子ども
- ・思いやりのある子ども
- ・発想の豊かな子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・ネイティブスピーカーによる「英語あそび」を通して、英語を身近に感じられる環境を提供する。
- ・園内の畑で1年を通して野菜を栽培し、自園調理の給食で食すことにより「食育」を行う。

3. 評価項目

項目	事項	評価の内容	自己評価	関係者評価
I 教育 (保育)	カリキュラム	子どもが主体的に活動するよう環境を作り、保育の質向上に努め、幼稚園教育の使命を果たす。	A	A
		ネイティブスピーカーによる「英語あそび」を通して、英語を身近に感じられる環境を提供する。	B	B
		古くから伝承されてきた文化に対して興味、関心が持てるよう、年中行事を保育に取り組む。	A	A
		多様性の理解を深める。障害を持つことは個人の可能性を制限するものではないことを、保育の中で伝えていく。	A	A
	食育	子どもたちに食の大切さを伝え保育の中で「作る・食べる」の体験を楽しめるようにする。	B	A
	預かり保育	預かり保育の内容の充実を目指す。具体的には保育の中における縦割り保育の充実、地域との交流を計る。また自園調理の強みを生かし、季節に合わせたおやつを提供することにより、年中行事に親しみを持つ。	B	A
大学連携	附属幼稚園として、幼稚園教諭を目指す学生が子どもへの理解を深め、援助方法を学べるよう支援を行う。また上記のような教育活動を実践することにより、見学する学生が幼児教育の重要性を学べるように心がける。	B	A	
安全対策	預かり保育を拡充し、日が暮れてから降園する子どもが増加することに伴い、南門付近が明るくなるよう対策を講じる。地域の警察署と連携し、警察官の指導のもと防犯訓練を行い、職員の防犯意識を高める。	B	C	

II 研究活動	実践研究	子どもが「自ら学ぶ力」を培えるような指導計画を研究し実践する。そのために定期的に園内研修を行い、より良い教育のために課題を共有し、より質の高い幼児教育について検討する。	B	B
III 募集及び広報活動	広報活動	入園説明会や入園希望者の見学の在り方について検討し、広くみどり幼稚園の保育についてアピールすることを目指す。	B	B
		子育て支援事業（ぼけっと・手あそびうたランド）の展開方法や運営について検討し、保護者や地域との繋がりを深める。	B	A
		園児を安定数確保するために、ホームページやブログの更新をし、みどり幼稚園の保育内容や、未就園児の来園機会を伝えるなどの広報活動を充実させる。	B	A
IV 社会貢献・地域連携	未就園児親子への支援	未就園児を持つ保護者を対象に、育児相談会を実施する。	A	B
		A4 サイズ 1 枚程度の情報誌を発行し、近くの認証保育園や小規模園に設置し、食育や知育に役立ててもらおう。	C	D
		近隣の子育て世帯を対象に、育児講演会を行う。	A	B
V 子育て支援	在園児保護者への支援	教育課程に係る教育時間終了後などに希望するものを対象に行う教育（預かり保育）を行い、教育課程内の担任教諭と連携しながら、子ども一人一人の心身の状況をとらえ、家庭的な雰囲気の中で、子どもが安心して遊ぶことができるよう、それぞれに適した教育を実践する。	A	A
		引き続き ICT ツールを活用し、保護者にとって快適なツールを目指す。またドキュメンテーションを作成し、同システムにおいて、園の活動などをわかりやすく保護者に伝える。さらにそのために用いた写真（職員撮影）を希望者に販売する。（令和 3 年度 10 月より試験的に実施中）	A	A
		保護者支援の一環として、カルチャー講座などを行う。	B	A

4. 関係者評価

I 教育（保育）

- ・年度初めにカリキュラムが配信され、どのような目的で保育計画がされているのか知ることが出来た。
- ・年中行事などを通して日本の文化を学び経験できていると感じる。
- ・食育、預かり保育、大学連携についてはそれぞれ内容について実施され一定の成果を上げている。
- ・英語あそびについては、今年度より先生や形式変更を行いより楽しく感じられるようになり、覚えた単語を披露したり歌を歌ったりすることもあり、一定の成果は得られているように感じられる。しかし回数が少ないため身につく前に忘れてしまう子もいるため、どこを成果としてとらえるかによる。ただし、年少時から同形式にて受講している園児は 3 年間の成果としては、期待できるように感じる。
- ・安全対策→C
ライトの設置に関しては、通路に設置されていることや、南門駐輪場にも設置されるようになった

た。しかし、切れている場合や光量が小さいことにより真冬は暗く危なく感じる。また、駐輪場内だけでなく、道路との境にも設置があると安全性が高められるように感じる。(体操教室の遅い時間に小学生が自転車で来る場合もあり、その際に見えづらく危険に感じるところもあり。)

II 研究活動

- ・カリキュラムにて細かな指導目標が明示されており、そのための研修や課題共有もされていることが推察され、一定の成果を得られていると感じるが、十分な成果とするまでは判断材料が少ないための評価。

III 募集及び広報活動

- ・子育て支援事業やホームページ、ブログの更新等で来園の機会を設けていると感じられた。アピールすることを目指すとしているが、園の温かさ親しみやすさは伝わっているように感じるが、初めて参加する方へ園の良さが十分に伝わったかの判断が難しいとの意見もあり。

IV 社会貢献・地域連携

- ・育児相談、育児講習会の取り組みが行われ、掲示板や配信等で情報を得られた。
- ・情報誌の発行が行われなかった。→D

V 子育て支援

- ・預かり保育については、受け入れ人数を増加し家庭的な雰囲気の中に行っている。
- ・コドモンを利用し、お知らせの配信や連絡などがスムーズになっている。また、保育中の様子をブログで伝え写真販売も実施されている。
- ・カルチャー講座も、コロナ禍ではあったが少しずつ再開していった。

* 「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分に成果があった
B	成果があった
C	取り組まれているが、成果が不十分であった
D	取組が不十分である

5. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>子ども達が自ら考え、自ら行動できるよう過ごしてきた。その結果、のびのび・明るく・元気に園生活を送る子ども達の姿が、園内に溢れていた。</p> <p>コロナ感染の対策を取りながらの日々、教員の研修等への積極的な参加により知識向上が更に必要と感じた。また安全対策に力を入れ、保護者の方が安心して預けられるように、日々対策・改善をしていくが必要と考える。</p> <p>今後は、日本女子体育大学附属園としての特色を更に生かし、日々の保育を行う。大学の先生方の協力も得て運動面にもより力を入れ、学生との関わりを持ちながら大学施設の利用もできる活動を増やしていく。</p> <p>また、子ども達の感性を引き出せる素材として、今以上に食育と環境に力を入れて取り組む。</p>

6. 今後取り組む課題

		課 題	具体的な取り組み方法
1	教育 (保育)	カリキュラム	保育環境としてビオトープを整備し、生き物の成長を通して命の大切さを伝えていけるよう、また季節の移り変わり等を感じられるようにする。
2		食育	畑を整備し、季節に応じた野菜や花の生長を観察し、また給食で食することで、食べ物に関心が高まるようにする。
3		預かり保育	預かり保育を希望する方が増えている現状、安心して預けていただけるように環境作り、またニーズに応えられるよう情報収集し、今後の預かり保育のあり方を常に考えていく。
4		安全対策	安全対策に常に取り組み、施設の徹底、警察等との連携、登降園時の安全指導等、安全に対する意識を高めていく。また近隣の迷惑にならないよう、安全面も含めて配慮していく。 夕方遅い時間の、安全確保の為照明等の更なる環境整備に取り組む。
5	地域連携	未就園児親子支援	園庭開放、育児相談会、子育て講習会や未就園児教室を実施し、子育て世代の情報交換の場、また交流の場として地域に貢献できるよう計画し、取り組んでいく。